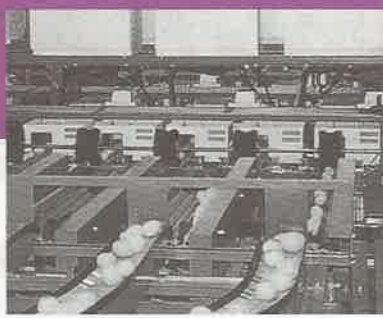


1 高品質・低コスト農業への取り組み

●新品種・新技術の普及で高品質化!

果実の糖度などを瞬時に測定する光センサーの導入や県開発の新品種・新技術の普及により、高品質な農産物づくりが進みました。



光センサーを活用した選果施設



●「エコファーマー」全国1位に!環境保全型農業が進む!

減農薬・減化学肥料など環境に配慮した農業を実践する農家「エコファーマー」が2,000戸突破。

また、県独自基準の特別栽培農作物「有作くん」の生産量増加など、環境保全型農業が進みました。

●「熊本型放牧」により、生産コストを削減!

子牛の生産原価の2~5割減を可能とする「熊本型放牧」(周年放牧、水田放牧など)の取り組みが広がりました。

県開発の極早生(こくわせ)温州(うんしゅう)みかん「肥(ひ)のあけほ」。最高の評価を受けています。



西田 誠也さん
下益城郡中央町
あか牛研究会

私たちは遊休地を活用した低コスト放牧に取り組んでいます。放牧面積はここ2年で1.7倍の9.4haに増加しました。

うしかいめいじょうのうししょう牛海綿状脳症(狂牛病)による影響は深刻ですが、これからも安全安心な「あか牛」の提供に頑張っていきます。



阿蘇の放牧風景



エコファーマー認定証の交付式

2 消費者ニーズに対応した新たな産地づくり

●新鮮な野菜を「コンテナ」で直送・販売!

産地と量販店が連携し、新鮮な野菜を「コンテナ」で直送・販売する方式を導入しました。

●少量多品目を直売所や物産館に出荷!

「多様な消費者ニーズや農家の経営規模に合わせた生産」と「各地の直売所や物産館」との連携による少量多品目の野菜の産地づくりを図りました。

●関東・関西に「県産農産物等販売情報拠点」!

大都市圏の消費者ニーズの把握と、県産農産物などの販売・PRを行うため、販売情報拠点が活動を開始しました。



コンテナによる直送・販売



沢田さんご夫妻
菊池郡合志町

私たちの地域では、平成12年から竜門ダムの水を利用し、きゅうりなど60数種の野菜を栽培しています。

現在、JAのふれあい市場に出荷していて、お客さんからの評判も上々です。今後も地域一丸となって頑張っていきます。



一寸(いっすん)そらまめの管理作業



「くまもと村」オープニングセレモニー(東大阪市)

3 農業・農村への理解に向けた取り組み

●「くまもと農業ウィーク」を開催!

消費者と生産者との交流を図るため、「農業・農村」「食」「健康」をテーマとした講演会、県産農産物を使った創作料理試食会、農産物展示即売、フォト・エッセイコンテストなどを行いました。

●食と農のネットワークづくり!

消費者と生産者が意見や情報を交換し、交流を深めるネットワークづくりを始めました。また、食生活指針の普及や、ふるさとの食の普及啓発活動を行う「食の名人」の認定など、食と農をつなぐ活動を展開しました。



くまもと農業フェア&米まつり



木村 恵美子さん
熊本県食生活改善推進連絡協議会

「食と健康展」の開催などにより、農業ウィークに参加し、農業の大切さや食と農の結びつきの強さをあらためて感じました。これからも、農業への関心を深めながら、食生活指針の普及に取り組んでいきたいと思ひます。



食農力レッジと農産物のタペ



くまもと農業・農村のフォトコンテスト最優秀賞「初めての田植え」木下保之さん

特集1

くまもと21農業振興運動

二十一世紀の「くまもと農業」を築くために!

新たに「地産地消運動」を展開!

農業を取り巻く環境が大きく変わる中、二十一世紀の明るく「くまもと農業」を築くため、市町村や農業団体、消費者の皆さんと一体となって「くまもと21農業振興運動」を平成十一年から進めています。これまで進めてきたこの運動の取り組みと、「地産地消運動」などこれからの方向性についてご紹介します。